

放射線腫瘍医・血液腫瘍内科医・放射線治療技師・医学物理士・看護師の皆様

教育シンポジウムのご案内

国際リンパ腫放射線腫瘍グループでは、この度「教育シンポジウム：悪性リンパ腫に対する最新放射線治療（ILROG2019）」を、2019年4月6日（土）・7日（日）にTFTホール（東京都江東区有明：がん研究会有明病院から徒歩5分）において開催する運びとなりました。本教育シンポジウムの目的は、国際リンパ腫放射線腫瘍グループによって提唱された「悪性リンパ腫に対する最新の放射線治療」を、東アジア特に日本の放射線腫瘍医に啓蒙し普及することです。20名余の悪性リンパ腫放射線治療の世界的指導者が来日され、以下のような内容について、各疾患ごとに講義をし、具体的な症例検討を行い、放射線腫瘍医および血液腫瘍内科医、放射線治療技師、看護師にわかりやすく解説します。

- ① 悪性リンパ腫の最新病理分類・画像診断・最新薬物療法
- ② 各リンパ腫分類ごと、また初回・再燃など各病態ごとの放射線治療の適応
- ③ 薬物療法と放射線療法のバランスや最新免疫療法
- ④ Involved Site Radiation Therapy (ISRT)など具体的な放射線治療計画
- ⑤ 強度変調放射線治療・呼吸管理照射・陽子線治療など最新放射線治療技術の応用

悪性リンパ腫の放射線治療について系統的かつ短時間に勉強する、極めて有意義な教育コースと思います。放射線腫瘍医が、適切な時期に放射線治療の適応を血液腫瘍内科医と討議でき、適切な放射線治療を実施できる能力を養うことが、主要目的です。血液腫瘍内科医にとっても、適切な時期に放射線治療の相談ができることが副次目的です。多数の皆様の御参加をお待ち申し上げております。

国際リンパ腫放射線腫瘍グループの活動と本シンポジウム開催経緯

悪性リンパ腫に対する放射線治療については、病理診断や画像診断や薬物療法などの進歩、および、放射線照射の技術革新により、その役割や治療方法などが、変遷してきました。放射線治療は悪性リンパ腫の局所制御に最も有効な医療手段であります。長期生存者の治療成績の解析から、遅発性毒性を最小にする最新の放射線治療法が、開発されてきました。

国際リンパ腫放射線腫瘍グループは、エキスパートコンセンサス会議を繰り返し開催し、2014年から今日まで、数多くの悪性リンパ腫放射線治療ガイドラインを発表してきました。ガイドラインの学術誌面上の情報の制約から、実臨床における悪性リンパ腫の多様性から、著者への具体的な問い合わせも多くありました。そこで、具体的な症例検討を盛り込んだ、より詳細な教育活動として、教育シンポジウムを5大陸を順番に開催してきました。欧州ではESTRO schoolが米国ではASTRO schoolで開催され、1回目は北米ニューヨーク、2回目は豪州メルボルンで開催され、今回3回目は東京での開催が決定いたしました。

がん治療施設が多数ある日本では、悪性リンパ腫に対する放射線治療の経験や教育機会が、分散しがちであり、まとまって勉強する機会に乏しい現状があります。今後このような教育シンポジウムを日本で開催することは、極めて難しいと思います。この機会を逃さずに、ぜひ御参加ください。

国際リンパ腫放射線腫瘍グループ理事長

Joachim Yahalom, M.D.

Memorial Sloan Kettering Cancer Center NY,USA

国際リンパ腫放射線腫瘍グループ副理事長

Lena Specht, M.D.

Rigshospitalet, Copenhagen University Hospital, Copenhagen Denmark

当番世話人

小口正彦

がん研究会 有明病院